

南昌大学附属病院の訪問記

2012年1月5日 佐賀大学医学部生体構造機能学講座
(神経生理学分野) 熊本栄一

(1)はじめに

昨年(2011年)の12月10日に中国江西省の省都南昌市にある南昌大学附属病院を訪問した。この病院の属する南昌大学の医学部と佐賀大学医学部とは学術交流協定を結んでおり、今回の訪問は3回目である。南昌大学医学部出身であり、現在私たちの研究室に在籍する博士課程2年生の蔣昌宇君と短期留学生の徐年香さんが同行した。上海経由で南昌市の空港に到着すると、以前私たちの研究室に1年間留学したことのある楊柳医師(後述)のお父上と、同じく私たちの研究室に留学し博士の学位を取得した柳濤(Tao Liu)講師が、それぞれ自家用車で出迎えて下さった。

今回の訪問の目的は、南昌大学の第1附属病院小児科に勤務する柳講師、および彼女と一緒に研究を行っている第1附属病院研究部門の羅時文(Shiwen Luo)教授と会談し両校の交流を深めることと共に研究の打ち合わせをすることであった。柳講師と同様、羅教授も佐賀大学大学院医学研究科博士課程を終了し、医学博士の学位を得ている。柳講師は、佐賀大学医学部の国際交流基金を頂いて、昨年(2011年)の5月から11月までの6ヶ月間、私たちの研究室で研究を行った(後述)。今回、訪問記として南昌大学の第1および第2附属病院と羅教授の研究室を簡単に紹介したい。

(2)南昌大学第1附属病院と羅教授の研究室

第1附属病院は1939年に設立された江西省における最大の病院で、南昌市の中心部にある(図1-図3)。この病院には2900のベッドがあり、約2000名のスタッフが働いている。そのうち181名が主任医師であり、また、110名が医学博士の学位を持っている。毎年、約800名の医学生が研修を受けており、そのうち約200名が大学院生、約30名が外国からの留学生である。また、白求恩奨章(Bethune medal;これは中国における最高の医学賞で、カナダの内科医 Henry Norman Bethune [1890-1939; 中国名: 白求恩] に由来する)を受賞した医師が2名もいるのは中国でこの病院だけである。外来患者は年間130万人を越えており、2011年における入院患者数は7万人以上である。

第1附属病院には4つの研究所と2つの重要な研究室がある。また、教育部門のほかに46以上の臨床や医学研究の部門がある。そのうち消化器科、心胸外科、神経外科そして集中治療科の4つは、国の集中的な支援を受けている重要な臨床部門である。さらに、国立の処置センターが1つ、省立の処置センターが5つ、国立の薬剤臨床検査ベースが15カ所、内視鏡専門トレーニングベースが4カ所ある。

図1は第1附属病院の外来診察部(outpatient department)である。その最上階(円筒部分)に羅教授の研究室があり、床面積は500 m²ある。分子生物学的研究や細胞培養実験などが可能な設備のほか、共焦点レーザー顕微鏡やPCR機器などが設置されている。ここでは、5人のスタッフ、3人のポスドクに加え、4人の博士課程および8人の修士課程の大学院生が実験を行っている。



图1 南昌大学第1附属病院の外来診察部



图2 南昌大学第1附属病院の敷地内にある様々な病棟



図 3 南昌大学第1附属病院の外科病棟

(3) 南昌大学第 2 附属病院

第 2 附属病院は楊医師(前述)が所属しているところであり、彼女が修士課程の時には神経内科に、現在はリハビリテーション科に所属している。楊医師は修士課程の3年次に私たちの研究室で実験を行い、痛み伝達制御に重要な役割を果たす脊髄膠様質で黒胡椒成分のピペリンが TRPV1 チャンネルを活性化してグルタミン酸の自発放出を促進することを明らかにしている。



図 4 南昌大学第 2 附属病院

第 2 附属病院は 1927 年に設立された病院で、第 1 附属病院のすぐ近くにある。設立当時は江西省で最先端の建物であった。過去 10 年間、多くのすぐれた評価や賞を受けており、中国厚生省によりグレード 3 の中の A クラスにランクされている。江西省でも現代的な病院として評価されている。昨年の 6 月に新病棟が完成し(図 4)、今後の更なる発展が期待されている。この新病院にはベッド数が 1600 あり、34 の専門の医療部門がある。心臓病の診断・治療が特に優れているほか、血液内科、肝胆外科、血管外科、整形外科および神経内科の分野は江西省において高レベルにランクされている。第 2 附属病院は地方や国の様々な要請に応じて科学的な医療センターとして機能することを、その使命としている。

第 2 附属病院は米国、日本、カナダおよびヨーロッパの国々などと幅広い国際交流を行っており、多くのスタッフが外国で研修を受けたり、多くの国際的な学術集会に出席したりしている。また、病院スタッフの多くは中国の医療界で活躍しており、中国の国立科学アカデミーにおいて 1 年あたり約 10 名が、江西省においては 1 年あたり約 30 名が様々な分野の会長および副会長の職に就いているそうである。

(4) おわりに

今回、柳講師が私たちの研究室で得たデータの打ち合わせを行うと共に、彼女が現在研究を行っている羅教授の研究室を訪問した。柳講師は痛み伝達制御におけるニューロンとグリアの相関に興味を持っており、脊髄膠様質ニューロンのグルタミン酸受容体作動薬 (AMPA や NMDA) 応答に及ぼすインターロイキン 1β の作用について興味深い結果を得ている。

羅教授の研究室において、彼から研究指導を受けたことのある消化器内科の王

翀 (Chong Wang) 医師や修士過程の学生である羅清甜 (Qing-Tian Luo) 医師、また、楊医師と彼女の1年後輩である神経内科の康欽 (Qin Kang) 医師と面談した。昼食や夕食の席では、彼らのほかに、羅教授、柳講師、蔣君や徐さん(上述)、そして、柳講師の上司である小児科の陳教授(佐賀大学医学部の濱崎雄平医学部長の小児科の研究室で1ヶ月間研修)、羅教授の奥方(佐賀大学工学部で博士の学位を取得)、柳講師の夫(彼の父上は、南昌大学医学部の前身である江西医学院と、当時佐賀医科大学であった佐賀大学医学部が学術交流協定を結ぶ際に来日されている)と共に交流を深めた。

今回、南昌大学の第1と第2附属病院を紹介させて頂いた。第1附属病院については王医師より、第2附属病院については楊医師より様々な情報を提供して頂いた。ここに感謝の意を表したい。また、今回の訪問にあたり旅費と宿泊費を柳講師の中国政府のグラント(National Nature Science Foundation of China)で負担して頂いたことにお礼を申し上げたい。これから益々、佐賀大学医学部と南昌大学医学部との間の学術交流が盛んになることを期待するものである。